

やまきた

議会だより

第182号

平成27年8月1日

第2回定例会
国保税限度額を引き上げ

一般質問
ズバッと問う！

生きいきひろば
地域に「笑顔」を

慰霊碑の清掃活動をする三保青年会

ズバツと問う！

一般質問

一般質問は、町政に関して議員が質問を行い、提案や意見を

述べ、時には是正を求め、新たな施策方針等を問うものです。

原稿は、質問議員が作成しています。

ページ	質 問 事 項	質 問 議 員
4	1. 山北駅南、北駐輪場に屋根の設置を 2. 高齢化対策に住宅リフォーム制度の創設を	庄 野 京 子
5	1. 地方創生へ繋げる広域幹線道路計画の策定を 2. 世附キャンプセンター跡地の活用を	渡 辺 良 孝
6	観光振興による町のにぎわいと山北駅周辺の活性化を	原 憲 司
7	1. 三保地域における土地の有効活用を 2. 若者が活躍できるまちづくりを	児 玉 洋 一
8	1. 老朽化した消防団車庫詰所の更新計画を 2. イベント成功のカギはムード作りから	石 田 照 子
9	情報ネットワークの構築・強化で災害に強いまちづくりを	藤 原 浩

第2回定例会（6月16日～17日）

国保税限度額を引き上げ

第2回定例会が6月16日から17日の2日間の会期で開催された。一般質問には6人の議員が地方創生や観光振興、災害に強い町づくりなどを取り上げ町の考えをたじた。町提出案件は、条例改正、工事請負契約、一般会計、特別会計補正予算、専決処分、一般会計繰越明許費、土地開発公社事業報告及び決算報告など11案件で、すべて原案通り可決した。

国民健康保険

なると考えられる。

地方創生総合戦略策定事業
全体では1千万円事業

一般会計補正予算

地方税法改正により国民健康保険税条例の一部を改正。事業内容は、賦課限度額の引き上げと軽減対象世帯の拡充。

むしろ値上げ対象者は少なくなる

渡辺議員 賦課限度額の改正により、国保税収はどう変わるのか。
保険健康課長 本算定終了前で、税額の伸びはまだまだわからない。限度額引き上げにより、対象世帯は少なく

（歳入）臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付事業費へ1881万8千円の増額

（歳出）洒水太鼓を守る会へ助成、人口ビジョン・総合戦略策定事業、町議会議員等選挙費の減額、行旅死亡人等取扱事業、臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金（仮称）山北スマー

トIC細目協定負担金（町負担割合47%）

山北町人口ビジョン・総合戦略策定事業11万6千円増額し、推進員を決める。

小栗議員 この事業は専門家を交え、この予算でできるのか。また、全体の事業費の中で対応できなかったのか。

企画財政課長 産・官・学・金・労の各種団体から意見を聴き、人口ビジョンとそれともなった総合戦略を二千万円の予算で策定する。当初の計画では人件費は含まれていないため町の予算で計上した。

議案等審議の結果

第2回定例会（6月16日～17日）

件 名	月 日	審議結果	件 名	月 日	審議結果
山北町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	6月17日	可 決 (賛成多数)	平成 27 年度山北町一般会計補正予算 (第 1 号)	6月17日	可 決 (賛成全員)
山北町国民健康保険税条例の一部改正	6月17日	可 決 (賛成多数)	平成 27 年度山北町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 2 号)	6月17日	可 決 (賛成全員)
山北町地域密着型サービスに関する条例の一部改正	6月17日	可 決 (賛成多数)	専決処分の承認について (平成 27 年度山北町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 1 号))	6月17日	承 認 (賛成全員)
山北町地域密着型介護予防サービスに関する条例の一部改正	6月17日	可 決 (賛成多数)	平成 26 年度山北町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告	6月17日	報告のみ
山北町指定介護予防支援及び基準該当介護予防支援に関する条例の一部改正	6月17日	可 決 (賛成多数)	平成 26 年度山北町土地開発公社事業報告及び決算報告について	6月17日	報告のみ
平成 26 年度谷峨跨線橋耐震補強・補修工事請負契約の締結	6月17日	可 決 (賛成全員)			

☆賛成・反対があった議案

議 案	議員名（議席順）	熊澤友子	藤原浩	井上正文	児玉洋一	原憲司	石田照子	瀬戸顯弘	瀬戸恵津子	鈴木登志子	小栗直治	川村俊治	渡辺良孝	庄野京子
山北町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
山北町国民健康保険税条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
山北町地域密着型サービスに関する条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
山北町地域密着型介護予防サービスに関する条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
山北町指定介護予防支援及び基準該当介護予防支援に関する条例の一部改正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

※○は賛成、●は反対を表しています。府川輝夫議長は、採決に加わりません。

問 広域幹線道路計画の策定を

答 (仮)山北スマートＩＣ周辺活性化計画を策定する



渡辺良孝 議員

問 平成 25 年に町議会から県知事へ、新東名高速道路の関連で（仮）小田原・甲府線整備計画を要望した。地方創生に絡め、具体的な計画を示すべきではないか。

答 「地方版総合戦略」は 5 年を目的の事業で、広域幹線道路計画とは別の計画となる。圏央道の開通で非常に困難な状況ではあるが、引き続き国・県の道路計画に位置づけるよう要望していく。



河内川橋(仮称)完成予想図

国では、観光振興などを対象に「地方版総合戦略」の策定を市町村に求めてきた。このことにより地方へのつながりの兆しが見えてきた。そのパイプとなる新東名高速道路に係る幹線道路計画や、周辺を絡めた活性化計画が必要であり質問をする。

問 スマートＩＣ周辺の活性化を図る計画が必要ではないか。

答 詳細な全体像が見えた段階で、（仮）山北スマートＩＣ周辺活性化計画の策定に取り組む。

問 県道「南箱道路」が整備されることにより、当町の歴史的背景を含め、回遊性を持った観光施策を策定すべきではないか。

答 河村城跡く洒水の滝く 21 世紀の森く夕日の滝を巡るコースに「南箱道路」が整備されると回遊性が確保できる。今年度改訂する観光マスタープランにしっかりと位置づけていく。

※南箱道路：南足柄市矢倉沢から箱根町仙石原につながる県道。

問 洒水の滝は県指定の名勝であり整備することにより多くの観光客を呼べる。整備計画の推進状況はどうか。

答 県と連携のもとで複数の遊歩道整備計画を検討している。ここで、工法等を検討するための地質調査が必要になったことから、県に財政支援を強力に要

問 住宅リフォーム助成制度の創設を

答 福祉サービスの中で実施している



庄野京子 議員

高齢化が進み、住み慣れた家にいつまでも住み続けられるようバリアフリー化が必要と思ひ質問する。

問 バリアフリー化のために住宅リフォーム助成制度を創設する考えは。

答 町では要介護認定者に住宅改修に対する補助を実施しており、段差の解消、手すりの設置、洋式トイレへの切り換え、滑りにくい床材への変更等、改修費用 20 万円を上限に 9 割を助成している。

すべての高齢者に対する「住宅リフォーム助成制度」の創設は考えていない。

問 住宅リフォームをする際には、可能な限り山北産の木材を使うなど町の振興となる施策を考えるべきでは。

答 町では公共工事において、「山北町公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針」に基づき、県産木材の利用促進をしている。



豊かな森林資源

問 山北町は、9 割が山林で水源としての役割もある。2007 年に箱根関所の建替の際には、玄倉から切り出された杉材がへりで運ばれた。

町の林業には、可能性はあるが搬出路が少ない。今後、搬出路を整備していく考えは。

答 林業は、町として重要な課題と受け止めているので、着実に路網を整備したり、間伐材、県産材を出していけるような方法を考えていく。



北口駐輪場

答 現時点では、駐輪場に屋根を設置する計画はない。ただし、地元自治会から要望がでていることも踏まえ、今後、近隣の JR 御殿場線沿線駅の駐輪場設置状況なども調査し検討する。

問 山北駅の駐輪場は、早朝からの通勤、通学の利用者が多く、日中雨が降ると自転車かぬれて利用に不便である。駅の南・北駐輪場に屋根を設置しては。

駅駐輪場に屋根を

望し、次の段階に入る計画である。

世附キャンプセンター
跡地の活用を

問 世附キャンプセンターは、山中湖へ繋がる拠点である。水の木幹線林道が改修されると活気が出てくる。三保地域振興整備計画の理念からも有効活用を図るべきである。

答 建物の老朽化と、水源確保のことからもキャンプ施設の復活は難しい。三保ダム建設時の基本理念は守り、登山者や、溪流釣り客に人気があり、大事な観光資源としての活用を検討していく。

※水の木幹線林道：浅瀬から山中湖へつながる明神峠手前までのルートで、林野庁所管の林道。

問 三保地域における土地の有効活用を

答 民間事業者が参入を進めている



児玉洋一 議員

問 元三保中学校について通信制高校が利用を検討しているとのことだが、今後

答 地域住民を交えた利活用検討委員会を立ち上げ、検討を進めてきたところ、あしがら荘閉館の話が持ち上がり、ハイツ&ヴィラなかがわ跡地とあしがら荘を一体として、活用したいという民間事業者参入の動きがある。町としては三保地域の観光振興と地元雇用につながるよう協議していく。



閉館した「あしがら荘」

問 ハイツ&ヴィラなかがわ跡地及び本年3月に閉館したあしがら荘を含めた利活用の進捗と今後の計画は。

答 近年の人口・観光客減少による地域の衰退化が進行する三保地域において、観光拠点としての早急な再生が必要と感じるが、現在までの休止中の施設・跡地の利活用について質問する。

問 平成26年8月に通信制高校から設立要望があり、平成28年4月の開校を目指し、準備を進めている。学校運営により、関係者が周辺施設を利用するなど地域の活性化につながるよう、に先方や地域住民との連携を強化していく。



開校した「三保中学校」

問 今後、町の将来を支える20代・50代の若者・子育て世代を対象に、総合的なリーダー育成研修会や交流事業の充実を図っては。

若者が活躍できるまちづくりを

答 本事業は国・県の補助を受け、地域介護予防保険事業として65歳以上の元気な高齢者がボランティアとして活躍することとで本人の介護予防が図れることを目的に開始する予定だが、今後は、町単独事業として年齢制限の見直しなど、新たな事業を検討していく。

問 町では本年度からボランティアポイント事業を開始する予定だが、65歳以上の年齢制限を見直し、若者も積極的に参画できる環境づくりを考えてみては。

答 子育て・健康増進・まちづくり等の自立的に活動している団体を中核として、5年先・10年先を見据えたリーダー人材育成を進めていく必要がある。今後各団体の活動や連携、研修会などを積極的に支援していく。

問 観光振興で町のにぎわいと活性化を

答 観光入込客を増加し町の活性化を図る



原 憲司 議員

当町の人口減少は、さらに続く傾向にあるので、観光入込客の増加により町のにぎわいと活性化を図り、山北町に住んでみたいと思えるまちづくりを推進するため、観光振興による観光入込客の増加と山北駅周辺の活性化について伺う。

問 山北らしい特徴ある「食」の開発を商工会や三業組合等と協議し、山北の特産食の開発・認定を行い、食の美味しさで観光入込客を増加させ、山北駅周辺の活性化を図っては。

答 山北町でなければ食べられない「食」を開発することは、本町の観光振興や地域振興につながるので、商工会や三業組合等と連携して取り組んでいく。

問 河村城跡の展望台と洒水の滝の観ばく台を早急に整備し、観光入込客を増加させ、山北駅周辺のにぎわいづくりに取り組んでは。

答 河村城跡史跡は、整備計画に基づき整備を進めていく。洒水の滝は、観ばく台までのルート、工法等を検討するためのボーリング調査を実施する。

問 秦野峠林道や犬越路林道、世附林道を有効活用し、新しい観光ルートとして、県や関係市町村に要望等を

行い、町の活性化や地域振興を図っては。

答 神奈川県が管理する林道で、犬越路林道は林業振興型、世附林道は地域振興型、秦野峠林道は林道振興型と地域振興型の併用型であるので、県に対して区分の見直しと規制緩和を要望していく。

問 2020年の東京オリンピック開催に伴い、外国人等の入込客を増加させ、観光振興に取り組んでは。



観ばく台の整備は

答 2020年の東京オリンピックに向けて施設整備や観光案内の計画づくりに取り組んでおり、今年度策定する観光マスタープランに具体的に位置づける。外国人向けの案内板は、英語表記を加えた製作を行っているので、継続して進める。

問 町のマスコットキャラクターを製作し、町独自のPR、宣伝を行い、観光振興を図っては。

答 マスコットキャラクターの製作は、以前から検討しているが、各自治体の活用事例は少ないことや動作の統一性などから人材確保が難しいので、現時点では導入しない。



開成町のマスコットキャラクター「あじさいちゃん」

問 情報ネット強化で災害に強いまちづくりを

答 導入に向けて検討する



答 部分的な改定は現在考えていないが、平成28年度改訂予定の県の地域防災計画に併せ改定を予定している。また要援護者の避難行動支援は、現在の名簿で対応できると考えている。

問 平成25年改定の災害対策基本法への整合性を高めるべく、地域防災計画を見直し、要援護者個別の支援計画作成を進めるよう提案する。

最近の火山活動活発化や巨大地震発生に備え、情報ネットワーク構築・強化により、災害に強いまちづくりを提案する。



藤原 浩 議員

問 Wi-Fi（ワイファイ）は、災害時の情報提供等に非常に有効な設備である。町で設置予定の駅前観光案内所、丹沢湖記念館以外に、耐災害性の高い公衆無線LAN等の機能を有する防災情報ステーションを整備し、災害時の通信・放

答 情報収集は、平成25年度被災者支援システムを導入して対応している。マイナンバーは、法で被災者台帳作成に関し認められており、導入について、町民に丁寧な説明を行い、防災面での活用を図っていく。

問 東日本大震災では、情報の収集発信に時間を要し、効率的な人の派遣や救護、救護物資の配分が難しかったと聞いている。出退所管理に簡易な機器を備え、マイナンバーの防災面活用が有効と考え提案する。

答 大規模災害発生時、通信が集中し、一時的に回線が不通になることを考え、災害時でも効果的に情報を発信できる公衆無線LANの設置は必要と思う。

今後、情報受発信方法等を検討し、避難所以外の施設への設置等を視野に、各施設管理者と連携を図り、導入に向け検討していく。



※ Wi-Fi とは

無線でネットワークに接続する技術の事です。**Wi-Fi** を利用しパソコンやスマートフォンで、屋外でも高速にネットワーク接続し、便利に使うことができます。セキュリティ対策で、安心して利用できます。



問 老朽化した消防団車庫詰所の更新計画を

答 更新計画を策定し十分な支援をしていく



石田照子 議員

噴火警戒レベルが2に引き上がった箱根大涌谷は、近年頻繁に起こる自然の異常を身近に感じさせるもので、私たちの不安を大きくかきたてている。同じ火山帯には、浅間山、御嶽山、富士山もあり当町にとっては予断の許せない状況にあると考え町の対応を問う。

※箱根大涌谷は6月29日夜から30日の間にごく小規模な噴火が発生し、噴火警戒レベルは3に引き上げられました。早い収束を祈ります。

問 車庫詰所の現状は半数が40年以上経過しており、古いものでは45年経った施設が2分団ある。重要拠点となる施設は総合計画に位置づけるものではないのか。

答 スパンの長いものは総合計画ではなく、平成28年度策定



重要拠点となる消防分団詰所

予定の「公共施設等総合管理計画」の中に位置づけていく。

問 危機感が増している今、噴火に対する準備や対応を避難訓練で呼びかけるべきでは。

答 当町では富士山噴火の被害が心配されるが、噴火よりも地震のほうが時間的余裕がないので、本年も地震に対する避難訓練を実施する。

防災訓練は火山噴火を意識して

問 噴火の際に必要な防じん用マスクとゴーグルの準備を防災訓練で呼びかけ、見本として参加者に配布したらどうか。

答 「自分の身は自分で守る」の考え方から、個人で用意していただく。町としては防災グッズの紹介や、あっせんなどに積極的に取り組んでいく。

出店しやすい環境づくりを

問 今年のさくら祭りでは、多くの出店が祭りに彩りを添えていたが、個人では出店できなかった。出店が多いほど人が集まるので、個人でも気軽に出店できるよう配慮したらどうか。

答 今年は「足柄アトプロジェクト」から申出があり、試験的に実施した。今後はさくら



桜の下で

祭りをさらに魅力的なものにするために条件を緩和するなど、多くの方に出店してもらえる方法を検討する。

活きいきひろば

地域に「笑顔」を

三保青年会 会長

細川 和義さん



三保青年会は、地域の18歳〜40歳までの若い世代を中心に地域の活性化と文化の継承・次世代育成を目的に昭和50年に設立され、今年で創立40周年を迎えることができました。私は第32代会長となり、改めて歴史の重みと責任を感じて

いるところです。

現在は、昭和47年に三保地域を襲った集中豪雨被災者の供養と、慰霊碑の清掃活動を始め、「秋祭り素人演芸大会」の開催、大室神社の初詣では「しし鍋」や「甘酒」の振る舞いなどの地域交流活動や、丹沢湖花火大会・マラソン大会などの警備協力も行っています。

そんな青年会員も少子高齢化とともに地域の若者が減少し、今では15人程度の会員となつてしまいましたが、先輩方が築き上げた歴史と伝統を継承しながら、これからも地域に笑顔を届けられるように活動していきたいと思っています。



笑顔の絶えない演芸大会

議会活動予定

8月

町村長・議長合同研修会

議会運営委員会

全員協議会

第2回臨時会・本会議

議会運営委員会

議員研修会

9月

第3回定例会・本会議

10月

県町村議会議長会役員会

議会の傍聴においでください

第3回定例会(予定)

9月4日(金)~

庁舎内テレビでも放映しています

お問い合わせ 議会事務局 75-3653

●議会ホームページ●

<http://www.town.yamakita.kanagawa.jp/gikai/>

編集後記



日本列島では火山活動が活発化し、自然の驚異を身近に感じると同時に、改めて防災意識の高揚が不可欠であると感じています。

新体制となった議会も3ヶ月を経過し、この6月議会においては新人議員2名を含む6名が一般質問に立ち、災害対策・観光振興・若者が活躍できるまちづくりなど、町の考えを問いました。

議会だよりの編集に携わる広報分科会では本号より、表紙写真の全面掲載やレイアウト構成などを一新しました。今後も、町民の皆様にとってより分かりやすい紙面となるように充実を図って参ります。

皆様からの貴重なご意見・ご感想をお待ちしております。

(児玉)



広報分科会

会長 石田 照子

副会長 児玉 洋一

委員 井上 正文

瀬戸 恵津子

鈴木 登志子

庄野 京子